

PW

くろおれ

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

ペルソナ×w／r／w／r／d

目次

勝利	9
第1話	1

第1話

夢を見た。

自分は映画館にいた。

映画館には誰もいなかった。

カーテンは閉まっていた。

まだ公演前なのか、それとも公演後なのか。

青い蝶がふと目の前を横切ったので

そつと目でおっていた。

『…。』

『…。』

m r 「……い」

m r 「…い、起きろ！」

m r 「お目覚めか。授業、とつくに終わったぜ？」

『蝶は…?』

m r 「まだ寝ぼけてんのか？」

頭がぼんやりとする…

m r 「オイオイ、しっかりしろよ。ヘンな夢でもみたのか？」

秀尽学園 2—D教室…

いつのまにか、

眠っていたようだ…

モルガナ「さて、目が覚めたら帰るぞ。今日の予定を決めないとな

！」

『そうしよう』

モルガナ「ボヤボヤしてたら一日なんてあつという間だからな。計画的に過ごせよ?」

モルガナ「よし、帰ろうぜ!」

竜司「よつしや、授業終わったー!地獄だったぜ…」

竜司「ふわあ… 眠っ…」

モルガナ「おいリユージ、気が抜けてるぞ」

竜司「ちげーよ。最近怪盗団のこと考えてたら、あんま眠れなくてよお…」

竜司「今日も授業中、思いつきり寝ちまった…」

モルガナ「リユージは前から居眠りしてるだろ?」

竜司「うっせ! で、今日は怪盗団の活動どうすんだ?」

竜司「次の期限まで時間あつけど、とりあえずアジトに集まんねえ?」

『集まろう』

竜司「さっすが!話が早えぜ。」

春「あ、みんな。」

竜司「おっ、ちようどいい。今、アジトに行こうって話してたところ。」

春「私、今日は放課後丸々時間とれるよ。会社の件もひとまず落ち着いたし。」

モルガナ「リユージ、みんなに連絡しとけ。」

竜司「オツケー。」

竜司「《アジトに集合》っと…」

ピロリロリン ピロリロリン

竜司「返信はやつ」

竜司「みんなルブランに来れるってよ。」

春「じゃあいきましたよ。」

モルガナ「…よし。今日はメメントスの攻略で、全会一致だな。」
モルガナ「いいな、フタバ？」

双葉「りょーかい。ナビがんばる。」

春「私は、まだみんなに比べて不慣れだし、精進しないと。」

杏「春は全然やってけるよ。上達早すぎ。」

杏「ねえ、真。メメントスもいいけど、パレス攻略は…大丈夫？」

真「問題無いわ。実力を磨くのは大事よ。失敗は許されない作戦だしね。」

祐介「俺はメメントスの探索、好きだぞ。あの空間、感じるものが多い…」

モルガナ「ワガハイもあそこには興味津々だ。何かあると思うんだよな…」

竜司「ま、パレスでもメメントスでも、やることやるだけだ。」

竜司「つか、あいつは？メメントスに連れてくの初めてだよな？」

竜司「なんなら置いてつちまっても…」

明智「待たせたね。」

竜司「げっ…」

双葉「ウワサをすれば。」

明智「遅くなつてごめん。仕事を立て込んでいてね」

明智「ところで、聞こえたんだけど…メメントスだって？」

『決定した』

明智「了解だ、蓮。」

此处で1つ、俺の話しよう。

コードネームは『ジョーカー』

怪盗団のリーダーをしている。

秀尽学園の2年生。

冤罪により、保護観察中の身だ。

モルガナ「これで全員揃ったな！」

モルガナ「よし、行こうぜ！」

モルガナ「華麗な勝利だったぜ、ジョーカー。」

明智「メメントス……」

明智「人の集合的無意識によって形成された、いわば『大衆のパレス』。」

明智「これもまた『認知世界』ってやつか」

祐介「最深部はどうなっているのか…… 知的好奇心がビシビシ刺激されるぞ。」

春「でも、なんだか…… ちょっと怖いところだよね……」

杏「私も最初は苦手だったかも。」

双葉「のんびりダベってるど敵が来るぞ。モナ、車にチェンジだ。」

モルガナ「………。」

双葉「モナー。」

春「モナちゃん、怖い顔してどうしたの？」

モルガナ「…… あ、いや。メメントスの様子が、いつもと違う気がしてな。」

真「どこが？」

竜司「…… 変わらなくなっけ？ どう思う、ジョーカー？」
『違う気がする』

祐介「そうか…… 俺は鍛練が足りないようだ。」

杏「私はいつも通りな気がするけどな。」

モルガナ「うーん…… ワガハイの気のせいか。」

モルガナ「じゃあ変身するぞ！ みんな離れろ。」

明智「猫が車になるなんて。 …… 本当に面白い世界だ。」

竜司「ひとり増えたから、ますます狭えぜ……」

明智「すまないね。歩いて行くわけにもいかないから。」

杏「ぶつちやけ定員オーバーだよね…」

春「モナちゃん、大丈夫？」

モルガナ「ワガハイを誰だと思ってる？ 大船に乗ったつもりで…」

モルガナ「にやぎ!？」

いきなりモルガナの車がガタガタと揺れ始めた…

真「えっ!? 何、今の音…」

モルガナ「ニヤニヤニヤ!？」

竜司「おいクイーン、何してんだよ。 世紀末ドライブか？」

真「私じゃないわよ！ 何これ？ ハンドルが勝手に…」

春「重くて故障しちゃった？」

双葉「挙動がおかしいぞ…」

祐介「拾い食いでもしたんじゃないか？」

モルガナ「ち、ちがう！」

モルガナ「まずい！ コントロールがきかねえ！」

真「ブレーキがきかないわ！ モナ、どうなってるの!？」

モルガナ「ワガハイが聞きてえよ！」

竜司「どんどん加速してる!!」

双葉「ぶぶぶぶつかる！ 酔う！ 死ぬ!!」

『っ！』

前面にモニターが見える…

春「う、うーん…」

真「いたた…」

祐介「皆、大丈夫か？」

双葉「死ぬかと思った…。 ジョーカー、生きてるか？」

『ああ。』

杏「ちよつと！何ここ!？」

竜司「…は？街…?」

祐介「メメントスにこんな場所、あつたか？」

春「パレスの壁をぶち抜いちやつたとか…?」

明智「怪盗服と言うことは、少なくとも現実世界じゃ無いようだね」

杏「異世界？ 外国みたいだけど…」

真「ねえ、みんな！イセカイナビを見て。 おかしいの。 何も表示されない。」

モルガナ「全員エラー画面？ いっせいに壊れたってことか？」

明智「いや、それは不自然だろう。 情報がほしいな。」

春「何か、手掛かりになるものは無いかな？」

竜司「やっべ、サツだ!」

杏「ちよつと待って！あの制服、日本の警察じゃないよね？」

双葉「海外の警察っぽい服だな…。 FPSでよく見るぞ。」

双葉「んー… シヤドウでもなさそうだ。」

真「なら、あの人に訊いてみる… とか？」

竜司「は!?!サツに!?!このカツコで!?!」

『任せた、クイーン』

真「ええっ、私!?!」

双葉「いぎというときはそのトゲで威嚇してやれ、クイーン。」

真「ハア… 言い出しっぺは私だものね。」

真「やってみるけど、もし何かあつたらみんなフォロー頼むからね?」

真「あの… すみません。」

真面目そうな警官「ん… ?なんだお前ら、その格好は!?!」

竜司「やっばそうなるよな…」

竜司「クイーンなんて、ただでさえ世紀末感スゲーし。」

真「えつと… 私たち、仮想パーティーに行く途中で道に迷ってしまつて。」

モルガナ「な、何てベタなんだ…。」

双葉「だがそれがいい。」

真面目そうな警官「妄想パーティー？ふうん…手が込んでるな。」
双葉「おおっ、信じたぞ！意外とチョロいな。」

祐介「ここまで本格的な衣装だとかえって信憑感が増すのかもしれない。」

真面目そうな警官「…で、何の用だ？」

真「ここが何処なのか、位置情報を教えていただけませんか？」

真面目そうな警官「ここはカモシテイの一番街だが…大都会カモシテイを知らないのか？」

竜司「なんかムカつく地名だな。てか、ジョーカー知ってつか？」
『知らない』

竜司「だよな。一度聞いたら忘れなさそうだし。」

春「うーん…新しいテーマパークか何かかな？」

真面目そうな警官「なんか怪しいな…お前ら、何処から来た？」
『覚えていない…』

真面目そうな警官「なんだと!?お前ら、妄想パーティーに行くんじゃないかったのか？」

杏「めっちゃ疑われてない!？」

明智「うーん、これは…ちよつとまずい流れだね」

真面目そうな警官「不審な奴らめ…何をしていたか、詳しく話を聞こうか」

真「ま、待ってください！私たちは本当につ…！」

モルガナ「おい、何かいっぱい来たぞ!？」

真面目そうな警官「その仮面集団、挙動が怪しい。まとめて連行しろ！」

小太りの警官「了解した、応援する！」

竜司「ヤベエ！みんな走れ！」

真「ご、ごめんなさい！」

真面目そうな警官「逃がすな！捕らえろー！」

竜司「つつつても、どこに逃げりゃいいんだ!？」

『ナビ！』

双葉「ちよい待ち！逃走経路に使えそうなのは… っと」

双葉「ジョーカー！向こうに進んでくれ！あっちなら敵もいないはずだ！」

モルガナ「よし！行くぞ、オマエら！」

モルガナ「おい、ヤバイぞ！前から敵がきてる…」

モルガナ「って、なんだこいつら！シャドウなのか!?!」

杏「た、多分…？いつものとは違うみたいだけど…」

杏「ああもう、意味わかんない！」

真「とにかく、今はここを切り抜けることだけを考えましょう。」

祐介「そうだな。後ろから警察も来ている… スカル、俺たちは

こっちの相手をしよう」

竜司「おうよ！まかせとけて！」

明智「僕も加勢するよ。ジョーカー、そっちは頼んだ。」

杏「見たこと無いシャドウだけど、軽く蹴散らして…」

杏「って… あ、あれ？なんか、身体が変…？」

春「うん… いつもみたいなの、力がでない…」

真「みんなも!?! 私だけじゃなかったのね…」

モルガナ「来るぞ！話はあとだ、構えろ！」

勝利

- ▶ 今回のシャドウ
- ↓ 翻弄のアルブリー
- ↓ 翻弄のアルブリー
- ↓ 独占のクビド
- ▶ 今回のメンバー
- ↓ 雨宮蓮
- ↓ 新島真
- ↓ 奥村春
- ↓ モルガナ
- ↓ 高卷杏

—Turn開始—

▶ 蓮 アタック—独占のクビド◀
『っ！』

▶ 真 アタック—独占のクビド◀
『どきなさい！』

▶ 春 アタック—独占のクビド◀
『パンサー、続けて』

▶ 杏 アタック—翻弄のアルブリー◀
『とおっ』

▶ モルガナ アタック—翻弄のアルブリー◀
『杏どのさすがだ！』

杏 「結構楽勝じゃない？」

モルガナ 「そうだな！」

真 「油断しないで。余裕があったら弱点も探していきましょう。」

▶モルガナ ガル―翻弄のアルブリー◀

『g O - 』

▶蓮 エイハ―翻弄のアルブリー◀

『奪え、アルセーヌ!』

杏「さっすがジョーカー」

『さあ、行くぞ』

真「いっつもいいところ奪っていくんだから」

杏「おつかれさま、蓮」

モルガナ「これくらい余裕だな!」

春「あっちもそろそろ終わりかな?」

杏「ていうかさ! やっぱり、ペルソナは使える!」

春「怪盗服のままだし、ここってメメントスの中?」

祐介「しかし、銃は使えなかった」

明智「ああ、ただのモデルガンになっていた。」

竜司「マジかよ? お前らのだけなんじゃ...」

ガチャガチャと竜司と共に銃を見てみた...

『!?!』

竜司「...あれ!? 俺のも!」

竜司「ペルソナは良くて銃は駄目とか、何なんだよココ!」

『...、認知の影響がないところ、とかか?』

真「そういうことになるわね。でも、一体ここはどこなの...?」

双葉「おい、またシャドウの気配だ! こっちに来てる。」

竜司「まだ来んのかよ!」

双葉「しかも、今の雑魚とはちがう。もっとやばそうなやつだ！」

杏「こんどは何?! なんなの!?!」

双葉「分かんらんが、接触は回避すべきだ」

双葉「私がナビする! シャドウのいない方へ向かえ!」

杏「で、どっちに逃げればいいの!?!」

双葉「そのまままっすぐ! とにかく進んでくれ!」

ナビの通りに振り向かずすすむと、正面に何かあった…

竜司「行き止まりか!?!」

杏「別の道はないの!?!」

祐介「おい、見ろ! なんだあれは?」

夢で見た映画館のような風景が見える…

杏「え、ひ、光ってるけど、なに!?!」

双葉「オイ、そこ! 行けそうだぞ! 先にも敵はいないっぽい!」

竜司「マジで!?!」

双葉「… たぶん!」

竜司「たぶんかよっ!」

『不安だな』

竜司「マジでな!」

モルガナ「どうするジョーカー!?! 他に道はない。入るか?」

『当然だ!』

双葉「おい、悩んでる時間ない! ヤバイシャドウの気配が来てる!」

双葉「すぐそこ!」

…!?!

アレはなんだろうか…

見たことのないシャドウのようだ

竜司「なんだありやあああ!?!」

祐介「あんなやつ見たことないぞ！」

双葉「あいつからはものすごい力を感じる…、危険だ！」

モルガナ「考えてる暇はねえ！戦略的テツタイってやつだ！」

竜司「チツ、行くつきやねえな！」

モルガナ「飛び込め！」

『行くぞ！』

目の前が真っ白になった……